

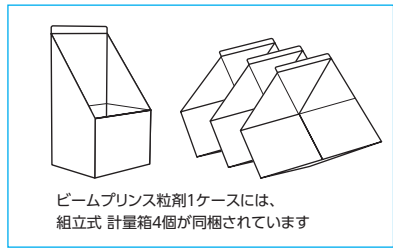


適用病害虫及び使用方法

| 作物名        | 適用病害虫名   | 使用量                                       | 使用時期           | 本剤及び<br>フィプロニル・トリシクラゾールを含む<br>農薬の総使用回数                             | 使用方法                          |
|------------|--|---|----------------|--|-------------------------------|
| 稲<br>(箱育苗) | いもち病<br>イネミズゾウムシ<br>イネドロオウムシ<br>ウンカ類<br>コブノメイガ<br>ニカメイチュウ<br>イネツトムシ<br>イナゴ類<br>イネアザミウマ | 育苗箱<br>(30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ)<br>1箱当り50g | 移植3日前<br>～移植当日 | 本剤：1回<br>フィプロニル：1回<br>トリシクラゾール：4回以内<br>(育苗箱への処理は1回以内、<br>本田では3回以内) | 育苗箱の<br>苗の上から<br>均一に<br>散布する。 |

上手な使い方

- 箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水したのち田植機にかけて移植してください。
- 本剤を使用した圃場の水田水は、絶対に水産動物の養殖には使用せず、養魚田、養殖池などには水田水が流出しないようにしてください。特にエビ類の養殖の場合には十分注意してください。
- ツマグロヨコバイに対しては効果が劣るので、萎縮病・黄萎病の罹病率が高い地区では十分注意してください。



使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 本剤の処理により、葉の黄化や葉先枯れなどの葉害を生ずる場合があるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには葉害を生ずるおそれがあるので、使用をさけてください。
- 稲苗の葉が濡れていると葉害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないでください。
- 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予想される場合、あるいは移植後極端な高温（30℃以上）が続くと予想される場合は、葉害を生ずるおそれがあるので使用をさけてください。

- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は、葉害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後に田面が露出しないよう注意してください。移植後は直ちに入水し、水深2～3cm程度に保ち、極端な浅水や深水は葉害の原因となるので教えてください。
- 深植では葉害を生じやすいので深植にならないように注意してください。
- 育苗箱の表面が乾燥していて苗を田植機に乗せる際に薬剤が落下するおそれのある場合は、散布後、葉に付着した薬剤を払い落としてから軽く灌水してください。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用を教えてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所など関係機関の指導を受けてください。



### 安全使用上の注意



- フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されています。
  - 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
  - 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
  - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物**…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- ・水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 保管**…直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密封して保管してください。